

「書き初め」～「変身」する文字と響き合う心～

「書き初め」と聞いて思い浮かぶのは、その年の目標や抱負を筆で書くことではないでしょうか。私が子どもの頃は書き初め大会があり、半切（はんせつ）サイズの大きな画仙紙に、太い筆で力強く書いたものでした。

1月20日（火）、交流校である弘前市立大和沢小学校へ、書き初めの指導に行ってまいりました。3・4年生、5・6年生それぞれ45分ずつの「書写」の時間です。課題は、3年生「正月」、4年生「手話」、5年生「星ふる町」、6年生「新たな世界」。3学期が始まり、今年初めて筆を手に、気持ちを込めて揮毫する子どもたちの姿は、まさに書き初めの本来の目的にふさわしいものでした。

授業では特に「線の変化」を感じることに主眼を置きました。太い線、細い線、重厚な線、軽やかな線……。書写ですので筆遣いや文字のバランスも大切ですが、今回はそこにこだわりすぎず、自分の気持ちを「線質」で表現することに挑戦してもらいました。

子どもたちの様子は千差万別です。丁寧にゆっくり書く子、スピードに乗ってさらさらと書く子、最後まで集中して書く子。高学年のクラスでは、腕を動かしやすいよう「立って書くこと」も提案しました。初めての試みに戸惑いながらも、体全体を使ってダイナミックに筆を動かす子どもたちの姿が印象的でした。

授業の締めくくりは、お互いの作品の良いところを見つける鑑賞会です。私が大切に続けているこの活動では、今回も友達の作品をじっくり眺め、「バランスがいい」「はらいが上手い」と次々に声が上がりました。そんな中、一人の男子児童が、友達が「最初に座って書いた作品」と「後から立って書いた作品」を見比べ、思わずこう呟きました。

「変身してる！」　のびのびと筆を動かして書かれた文字は、同じ子が書いたとは思えないほど劇的な変化を遂げていたのです。友達の変化を敏感に感じ取り、その良さを「変身」という言葉で称賛した瞬間の、子どもたちの弾けるような笑顔がとても素敵でした。

45分という短い時間でしたが、書写を通じて互いの良さを認め合い、笑顔があふれるひとときとなりました。このような充実した時間を共有できたのは、大和沢小学校の先生方が日頃から落ち着いた学習環境を整え、温かくご指導されている賜物であると感じました。授業者として、私自身も大変幸せな時間を過ごさせていただきました。

